

プレカット ニュース

一般社団法人全国木造住宅機械プレカット協会

東京都千代田区永田町2丁目4番3号永田町ビル6階

TEL 03 (3580) 3215 FAX 03 (3580) 3226

<http://www.precut-kyokai.com>

新年のご挨拶

一般社団法人全国木造住宅機械プレカット協会
会長 原田実生

新年明けましておめでとうございます。輝かしい新年をお迎えることとお慶び申し上げます。また、会員の皆様方には、常日頃、当協会の事業運営に格別のご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、昨年の我が国経済は、消費税率引き上げによりマイナス成長が続いた後も、中国経済を初めとする対外経済環境の悪化や原油安が重なり、景気の足踏み状態が続きました。住宅着工の動向については、駆け込み需要の反動減から脱しつつあり、対前年同月比ではプラスに転じ、季節調整済年率換算値では90万戸前後で推移しています。

このような中で、昨年のプレカット加工業の業況をみますと、1戸当たりの着工床面積が減少しつつあること等の需要者層の住宅取得に対する意識変化も影響し、厳しい業況が続きました。一方、木材利用に関しては、国産材資源の充実を背景に、公共建築物への木材利用の推進など各般の積極的な政策を受け、各地で中大規模木造建築物の大型商業施設や公共施設等が作られ始めるなど、これらの動きがプレカット加工業においては新たな需要分野として期待されています。

当協会ではプレカット加工業に対する技術支援の取り組みとして、「プレカットCAD技術者基準」に準拠したプレカットCAD技術者研修を開催し、その修了者を対象として、「プレカットCAD技術者認定登録」を実施しています。このことにより、認定技術者の存在が各プレカット工場の優れた加工技術レベルの新たな証として活用されることが望まれています。また、非住宅分野への対応として、一般流通材を利用した施設系中規模木造建築物のプレカット加工図作成に当たって必要となる木質材料、木質構造、関連法規等について四号建築物との違いを主体に研修を行い、新たな需要に対する対応能力の向上に努めて行くこととしています。

一方、業務支援としては、合法木材供給事業者認定等による違法伐採対策の推進を図るとともに、全国住宅プレカット部材共済会が実施しているプレカット部材瑕疵保証事業の保証物件について、従来の一般住宅に加えて、床面積1,000㎡までの店舗、集会所等の非住宅物件を加え、会員の皆様のご要望に応えるべくその充実強化を図っています。

これらを通じて、安全・安心な住環境の創造で顧客満足の得られるような木造建築物の提供にお手伝いできることを願っています。

本年が住宅産業・木材産業にとって飛躍の年になり、そして皆様方にとってすばらしい一年となりますように祈念申し上げますとともに、当協会に対する皆様方のご支援、ご協力をお願い申し上げまして、新年のご挨拶といたします。



第50回全国木材産業振興大会三重大会開催される

— 都市での木材利用拡大等への宣言決議を採択 —

第50回全国木材産業振興大会は、平成27年10月29日に「新たな木材利用への挑戦で木材産業の創造的再興～木材利用で街に第二の森林を～」をメインテーマとして、三重県津市の「三重県総合文化センター」において、来賓として今井林野庁長官、真鍋国土交通省住宅局住宅生産課長、吉川三重県農林水産部次長初め多数のご来賓の出席をいただき、また、全国から900名の参加のもとに開催されました。

大会の第一部では、次のとおり大会宣言が満場一致で決議されました。引き続いて、昨年東京大会で採択した（一社）全国木材組合連合会と全国森林組合連合とのウッドファースト社会実現への共同宣言を一歩進め、林業・木材産業関係者が一体となって森林・山村再生への抜本対策の実現に向けた具体的な行動を起こしていくことを内容として（一社）全国木材組合連合会、（一社）日本林業協会、全国森林組合連合会、（一社）日本林業経営者協会が共同で発表した「日本の森林・山村の再生に向けた共同行動宣言」が報告され満場一致で決議されました。

また、第二部においては、三重県総合医療センター理事長である内田淳正氏を講師として「みんなで成熟した社会を作ろう」と題した記念講演が行われました。

第三部の表彰式では、退任団体長、木材産業功労者、協同組合事業功労者の表彰が行われ、退任団体長表彰では当協会の櫻井秀弥前会長が受賞し、長年に亘る木材産業に対するご功績が賞賛されました。

— 宣 言 決 議 —

1. 木材利用の大幅な拡大を実現するため、森林・林業・木材産業関係者が一体となった木材利用拡大運動を進めよう
1. 新たな木材需要拡大への支援対策・予算の実現と充実に取り組もう
1. 高層建築物、商工業施設をはじめ暮らしにかかわるあらゆる分野に木材利用を創出するため、CLTなどの新しい技術の開発・活用等の取り組みを進めよう
1. 東京オリンピック・パラリンピック関連施設への木材利用を実現しよう
1. 木材産業の成長産業化を目指して、効率的な生産・加工・流通体制の構築、税制度の確立、木材貿易の適正推進、間伐材・未利用材の木質バイオマス発電利用、新規分野の開拓促進に取り組もう
1. JAS製品、合法木材・木製品、乾燥材など、安全安心で品質・性能の確かな木材の供給や担い手の育成確保に取り組もう

プレカットCAD技術者認定登録状況

(平成27年12月4日現在)

| 研修受講 年度 | 認定級別 | 東京会場 | | 名古屋会場 | | 大阪会場 | | 合計 | |
|------------|------|------------|------------------|------------|------------------|------------|------------------|------------|------------------|
| | | 認定者 (人) | うち会員工場 に所属する者 | 認定者 (人) | うち会員工場 に所属する者 | 認定者 (人) | うち会員工場 に所属する者 | 認定者 (人) | うち会員工場 に所属する者 |
| 24年度 | 2級 | 34 | 22 | 21 | 8 | 24 | 10 | 79 | 40 |
| 25年度 | 1級 | 17 | 10 | — | — | — | — | 17 | 10 |
| | 2級 | 21 | 11 | 20 | 8 | 17 | 2 | 58 | 21 |
| | 3級 | 4 | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 6 | 2 |
| 26年度 | 1級 | 1 | 0 | — | — | — | — | 1 | 0 |
| | 2級 | 42 | 28 | 34 | 18 | — | — | 76 | 46 |
| | 3級 | 4 | 3 | 2 | 0 | — | — | 6 | 3 |
| 合計 | 1級 | 18 | 10 | — | — | — | — | 18 | 10 |
| | 2級 | 97 | 61 | 75 | 34 | 41 | 12 | 213 | 107 |
| | 3級 | 8 | 4 | 3 | 1 | 1 | 0 | 12 | 5 |

協会会員工場基礎調査結果について(第3回)

－ 年間総生産量・AQ製品生産量調べ －

調査対象年月：平成26年12月
調査対象工場数：42工場

| | 10,000坪未満 | 10,000坪以上 20,000坪未満 | 20,000坪以上 30,000坪未満 | 30,000坪以上 50,000坪未満 | 50,000坪以上 | 合 計 |
|----------------------|-----------------|---|------------------------|---|---|---------|
| 総生産量 (単位：100坪) | 58、12、80、 82 | 182、118、 116、150、 110、178、 150、190 | 220、274 | 368、330、 380、450、 330、305、 478、435、 350、347、 475、453、 420、300 | 746、800、 6,320、665、 1,454、834、 900、568、 600、860、 540、600、 1,620、861 | 24,709 |
| 平均 | 58.0 | 149.3 | 247.0 | 387.2 | 1,240.6 | 588.3 |
| (前年平均) | (82.4) | (150.0) | (245.2) | (405.7) | (1,310.4) | (528.5) |
| AQ製品生産量 (単位：100坪) | 0、4、0、 0 | 0、118、0、 0、0、100、 0、0 | 0、110 | 0、0、0、380、 0、0、460、 0、280、0、 0、0、0、0 | 0、8、0、0、 152、0、0、 0、0、150、 180、100、 450、22 | 2,514 |
| 平均 | 1.0 | 27.3 | 55.0 | 80.0 | 75.9 | 59.9 |
| (前年平均) | (0) | (19.6) | (34.0) | (91.2) | (35.5) | (50.5) |
| AQ製品生産比率 | 1.7% | 18.3% | 22.3% | 20.7% | 6.1% | 10.2% |
| (前年AQ製品 生産比率) | (0%) | (13.0%) | (13.9%) | (22.5%) | (5.0%) | (9.6%) |

◇簡単なコメント

- (1) 会員42工場を対象とした調査によると、平成26年の1工場当たり年間平均生産量は、58,830坪で、1棟当たり40坪換算すると1,470棟に相当し、前年の平均生産量に比べると、11.3%の増加になっている。これは、消費税引き上げに係る駆け込み需要の反動減により着工数の大幅な減少があったものの、各プレカット工場においては加工設備の増設や更新が進み、加工能力は増強したことが、1工場当たりの平均加工量の増加に影響しているものと判断される。これを、階層別に見ると、10,000坪未満層の平均生産量は3割減少したが、それ以外の階層では平均生産量の大幅な変動はなく、加工能力の増大とともに需要拡大に向けた営業努力に裏打ちされた生産量の維持が図られていると推定される。
- (2) 総生産量に占めるAQ製品の生産比率は10.2%で前年に比べて0.6ポイント上昇した。階層別にAQ製品の生産量を見ると、10,000坪未満の階層の生産実績は1.7%と極端に低いが、10,000～20,000坪及び20,000～30,000坪の階層ではそれぞれ5.3ポイント、8.4ポイントの増加になり、中堅クラスのプレカット工場においては、消費者ニーズに直接応えたAQ認証材の生産を増加させていることがうかがえる。

プレカット業況調査(平成27年11月期)

一般社団法人全国木造住宅機械プレカット協会調べ (回答率: 52%)

| 設 問 | 回答率 (%) | | | DI | 前回 DI |
|---|---------------------|-----|-----|------|----------|
| | (1) | (2) | (3) | | |
| 1-1 今月の受注額は3ヶ月前と比べて如何ですか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減) | 42 | 45 | 13 | + 29 | + 14 |
| 1-2 3ヶ月後の受注額をどう予測しますか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減) | 3 | 39 | 58 | - 55 | + 3 |
| 2-1 貴社の坪あたり平均総加工単価はいくらですか。 | 答:6,070円(対前回調査-30円) | | | | |
| 3-1 今月の製品加工単価は3ヶ月前と比べて如何ですか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減) | 3 | 97 | 0 | + 3 | - 6 |
| 3-2 3ヶ月後の製品加工単価をどう予測しますか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減) | 0 | 90 | 10 | - 10 | - 18 |
| 4-1 今月の資材(製品)入手状況は如何ですか。 (1)容易 (2)変わらず (3)困難 | 3 | 81 | 16 | - 13 | - 3 |
| 4-2 3ヶ月後の資材(製品)入手状況をどう予測しますか。 (1)容易 (2)変わらず (3)困難 | 3 | 84 | 13 | - 10 | 0 |
| 5-1 今月の収益は3ヶ月前と比べて如何ですか。 (1)良い(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪い(5%以上の減) | 35 | 49 | 16 | + 19 | + 3 |
| 5-2 3ヶ月後の収益をどう予測しますか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減) | 3 | 52 | 45 | - 42 | - 9 |

* DI = (1)の% - (3)の%、+の数値が大きいほど好況、-の数値が大きいほど不況。

* 前回調査: 平成27年8月

◇簡単なコメント

11月の各設問のDIをみると、受注額、収益は好転しているが、3ヵ月後は大幅に悪化すると予測されている。このため、加工単価についても弱含みで推移するとみられる。また、資材の入手環境には大きな変化はないとみられるが、合板の供給はタイトになる見通しである。冬場の不需要期を迎えるが、春のおとずれとともに業況が好転することを期待したい。

1. 受注額のDIは+29で前回調査時(平成27年8月期)に比べて、好転しており年末を控えた需要増を反映している。しかし、3ヵ月後の予測のDIは-55と大幅に悪化する見通しである。冬場の不需要期を迎え、業況の減速化が懸念される。
2. 3ヵ月前と比較した製品加工単価のDIは+3であった。平均総加工単価は6,070円と3ヵ月前に比べて30円低下したが、横ばいといえるであろう。一方、3ヵ月後の製品加工単価のDIは-10で、競争の激化とともに、不需要期の中での加工単価の維持が課題になるとみられる。
3. 資材入手状況のDIは-13で合板を中心にタイト感が現れはじめている。また、3ヵ月後の予測は-10でありこの状況は続くとみられる。
4. このようなことから、3ヵ月前と比べた収益のDIは+19で、前回調査時の3ヵ月後の収益予測は-9であったので予想を上回る業況といえる。しかし、3ヵ月後の収益予測は-42と大幅に悪化するとみられ、今後、秋需の反動減が大きく影響しないことを期待したい。